

	理工学部メカトロニクス工学科
DP	<p>メカトロニクス工学科は、本学立学の精神と本学科が掲げる人材養成目的を具現化するために身に付けるべき能力、資質、姿勢を総合的に勘案し、次の3つの能力を有する学生に対して、学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>①技術者としての社会適応性を有し、物事を客観的に議論できる能力</p> <p>②機械・電気のハードウェアを有するメカトロニクスシステム、および、その要素機器を理解できる能力</p> <p>③機械・電気・情報についての基礎知識を演習を通じて実践的な能力に高め、学びの中で得た知識・経験を社会で応用・表現できる能力</p>
CP	<p>メカトロニクス工学科の教育研究目標および人材養成目的を達成するため、機能モデリングのコア教育を基盤とするメカトロニクス工学科根幹科目(基礎教養、メカトロニクス工学科開講科目)と機能モデル化の基礎学力を育成する専門科目(基礎力育成科目:関連学科との連携による共同開講科目)に基づき教育課程を編成し、教育課程編成方針として、以下の諸点を掲げています。</p> <p>①教養教育は、体系的教育による基礎学力の強化として、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。</p> <p>②専門教育では、実感教育を主体とする設計力の強化を掲げて、工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。</p> <p>③導入教育でPBLによるシステム構築思考の育成のための教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにするとともに、分野深耕プログラムにおける繰り返し型PBL(IPBL)を通じた理解度向上を図った教育を実施する。最終学年の4年次で行う卒業研究などでは、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学修と創造的思考力が培われるようにする。</p> <p>④シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定する。また、学生個別の成績表にもそれを記載し、GPA評価も含めて学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>メカトロニクス工学科は、人材養成目的、学位授与方針および教育課程編成方針に沿った教育・研究を行うことにより、メカトロニクス技術者の養成を目指しています。入学者は本学科の人材養成目的等をよく理解し、自ら勉学・研究に真摯に取り組む学生であることが求められています。このことから、本学科のアドミッションポリシーを以下のように定め、入学者選抜の基本とします。</p> <p>①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する人。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する人。</p> <p>②数学、理科および英語の基礎学力を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する人。</p> <p>③科学技術者としての夢を持ち、またその実現に向けて主体的に努力できて、多様な人々と協力して、理工系の科学・技術を用いて社会貢献しようとする意欲を有する人。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>